

ITU-R SG1関連会合（2020年11-12月開催）の結果概要 資料20-1

（1）会合の概要

日程・場所 : 2020年11月24日（火）～12月3日（木） Virtual meeting（GoTo Webinar）
検討事項 : ワイヤレス電力伝送（WPT）、テラヘルツデバイスに関する勧告／報告書等について審議。
参加者 : 米、加、英、蘭、露、中、韓等から約420名が参加登録。日本から総務省、民間企業等計27名が参加。

（2）主な結果

（1）ワイヤレス電力伝送（WPT）に関する検討

- Beam（空間伝送型）WPTの影響評価に関するITU-R報告案SM.[WPT.BEAM.IMPACTS] について、2020年7月に情通審から一部答申された周波数共用検討状況等を記載した日本寄書を提案し、米国の検討状況を含めて作業文書を作成。
- EBU（欧州放送連合）からEV用WPTにおける放射許容値に関するITU-R勧告案SM.[WPT-EMISSIONS]の提案があり、日本から既存勧告の環境雑音の許容値を適用すべきであり、報告とすべきと主張。米国からも勧告化は時期尚早であるとし、日米と欧州間で合意せず。
- WPTに関する研究課題（ITU-R 210/1）について、ISMやShort Range DeviceだけでなくBeam WPTを想定した措置が必要との日本提案が考慮され、他の無線通信業務を保護するためのWPT運用上の条件等を追加した改定草案が作成。

（2）テラヘルツ帯の能動業務に関する検討

- 275-1000GHzにおける能動業務の技術的特性及び運用特性に関する研究課題（ITU-R 237/1）に係るITU-R報告SM.2352（275-3000GHzにおける能動業務の技術動向）の改正に向けた作業文書について、日本から入力したWRC-19議題1.15の結果※¹を反映する提案及び275-600GHzにおけるウォークスルー走査システム※²の仕様追加等の提案や、IEEEから提案された最新情報等を踏まえ、当該作業文書の更新が行われた。
- 当該作業文書におけるウォークスルー走査システムの仕様検討に資することを目的として、衣服等の透過・反射特性について情報を求めるリエゾン文書をWP 3J、3K及び3Mへ送付することを日本から提案した結果、当該提案が合意され、リエゾン文書が発出された。

※¹ RR脚注5.564A/275-450 GHz（一部帯域除く）における固定業務及び陸上移動業務の周波数帯の特定

※² 衣服の下に隠れた金属・非金属の危険物を短時間で検知するシステム

（3）今後のスケジュール

ITU-R SG 1関連会合：2021年5月25日～6月3日（Virtual meeting）予定